■「令和」の幕開けと朗報

阿波野　昌幸*

本年5月1日に皇太子徳仁親王殿下が天皇に即位され「平成」から新たな「令和」の時代が始まりました。5月4日には新天皇皇后両陛下の御即位を祝う国民が皇居を訪れ，その数は14万人を超え，日本国民の天皇陛下に対する敬愛の念の深さをあらためて感じました。これは，上皇になられた平成天皇皇后両陛下，そして，当時の皇太子・皇太子妃殿下が，わが国のさまざまな自然災害時にその地を訪れ，国民を見舞われたことなどに対する感謝の念の表れのように思えます。

平成の時代，日本では阪神・淡路大震災や東日本大震災をはじめ多くの自然災害に遭遇しました。しかし，決して平成の時代が特別ではなく，明治・大正・昭和の時代にも大地震・台風・豪雨などにより甚大な被害を被っています。また，日本では平成の時代は平和な時代だったかのように思いがちですが，明治時代の日清・日露戦争，大正時代の第一次世界大戦，そして昭和の太平洋戦争などのように直接戦火を交えなかったものの，世界では湾岸戦争，イラク戦争，そして多くのテロ事件などが発生し，日本と決して無関係ではありませんでした。また，平和ボケしてはならないと思わされるのは，日本周辺の国々の動き，日本海沿岸諸島への進出，飛翔体の飛来，南西諸島の軍事拠点化など，見過ごすことのできないことが日本を取り巻いていることです。決して過去のように直接戦火を交えることがないことを切に願うばかりです。新たな「令和」の世が，‘人々が美しく心を寄せ合うなかで文化が生まれ育つ’時代になることを祈りたいものです。

ところで，G20が開催され各国要人が初めて一堂に会した大阪に，この令和元年を祝うかのように朗報がもたらされました。G20直後の7月6日にユネスコ世界遺産委員会において「仁徳天皇陵（大山古墳）」を含む「百舌鳥・古市古墳群」が世界遺産に決定されました。私事ですが，生まれてから小学4年生までの幼少期を堺市で過ごし，郷土史において近くにある「仁徳天皇陵」が世界最大級の大きさの墳墓であることを学びました。そして，その昔，渡来人には、大阪湾から見えたこの巨大な長さと高さをもつ仁徳天皇陵は，倭の国には強大な力をもつ大王がいることを想像させたようです。

世界遺産は10の登録基準のうちいずれか1つ以上満たす必要があり，その基準によって‘文化遺産’，‘自然遺産’，その両者に合致する‘複合遺産’に分けられています。日本の世界遺産の自然遺産はよく知られた屋久島，白神山地，知床，小笠原諸島の4件で，文化遺産は今回の「百舌鳥･古市古墳群」を含め19件となっています。文化遺産は寺社仏閣や歴史遺産に関わる建物･施設など多岐にわたる物件が指定されていますが，天皇陵は初めてです。日本人にとって，天皇陵が世界遺産に選定されたことは喜ばしいことであり誇りに思うべきことでしょう。諸説あるようですが，神武天皇を初代天皇と考えると，古墳時代の頃に在位されたとされる仁徳天皇は16代天皇，その他「百舌鳥古墳群」には17代履中天皇，18代反正天皇，「古市古墳群」には14代仲哀天皇，15代応神天皇，19代允恭天皇の天皇陵が含まれています。今上天皇は126代目となられますが，このように天皇家が長きにわたり途絶えることなく続いていることは，他の国々には例を見ないことです。過去の日本歴史のなかで，国内でどのような争いごとが生じても，天皇を敬い奉り続けたことは日本人の誇るべきことであり，「百舌鳥・古市古墳群」の世界遺産の決定が，そのことを世界に知らせる機会となるのではないかと思います。

来年はいよいよ東京オリンピックが開催され，その施設も順調に出来上がりつつあるようですが，来る2025年には関西・大阪万国博覧会が開催されることが決まっています。この大阪の地で令和元年に初めて天皇陵を含む古墳群が世界遺産に指定されたことは，大阪にゆかりのある人にとって，そして日本人にとって，とても喜ばしいことではないでしょうか。

* *Masayuki AWANO*：本工学会副会長
近畿大学 建築学部 建築学科 学科長